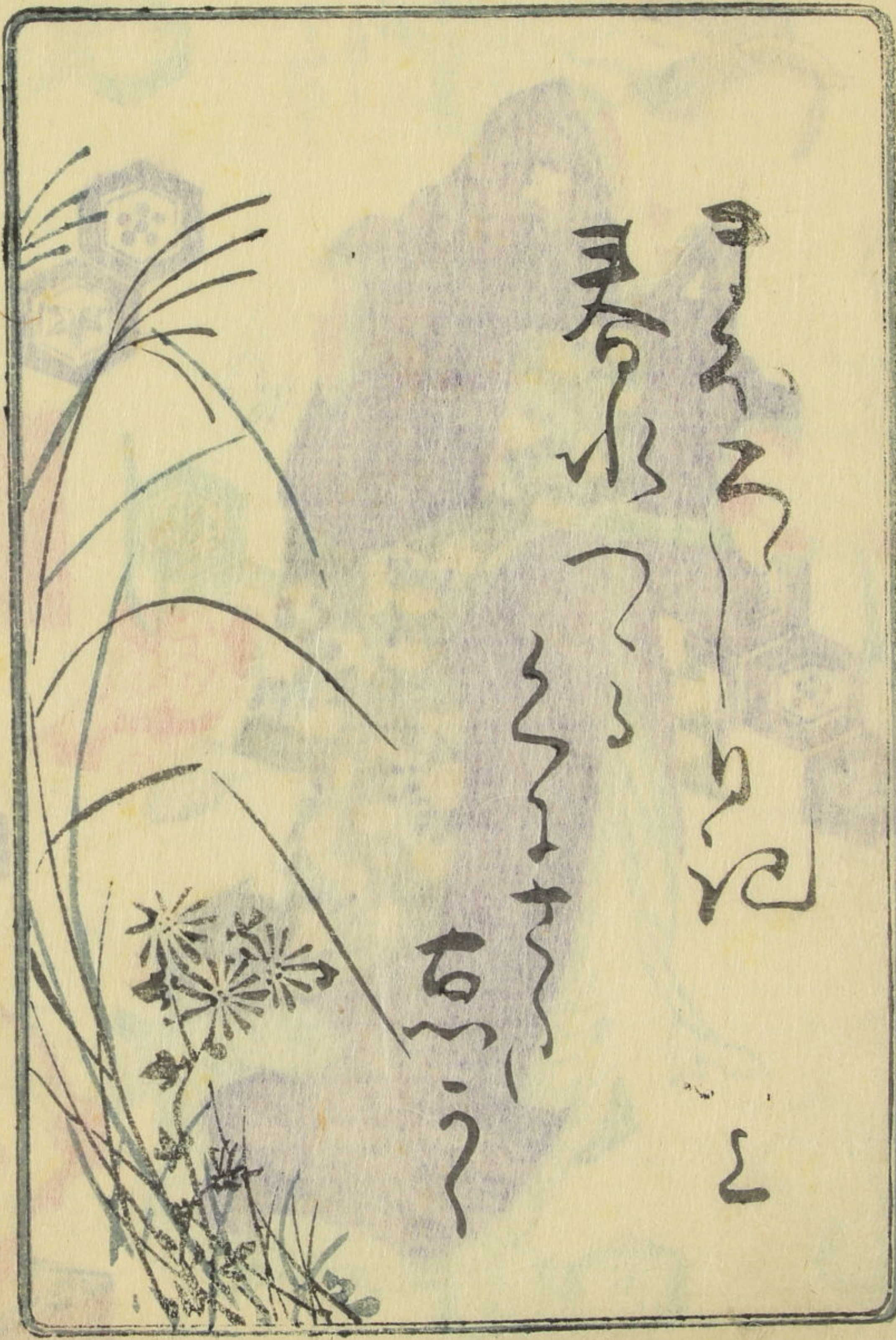


門 13  
 號 3706  
 卷 39



春水つる  
 春水つる  
 春水つる

往時の草双紙の紙員僅小五枚をもて一卷とありつるを  
 後小十枚を緘合せて一冊とありたるもの合巻物の本と  
 して其頃の序言もあつ及長編の續物あり小と近世の  
 習風としてその策子も長編あり小編毎小自序ありて  
 得ては綴る詞も奈末與民の肱小頬を持せとも拙手の  
 休む小似て暮遅きとて春の日も金鳥翅と揚る  
 西山の飛び玉鬼浪を走りて東窓小来まが燈火を  
 乗らんも累りしとて探り書しとて机をおとる

壬申晚春稿成  
 癸酉孟春發兌

戲墨堂主人識

丁酉記十



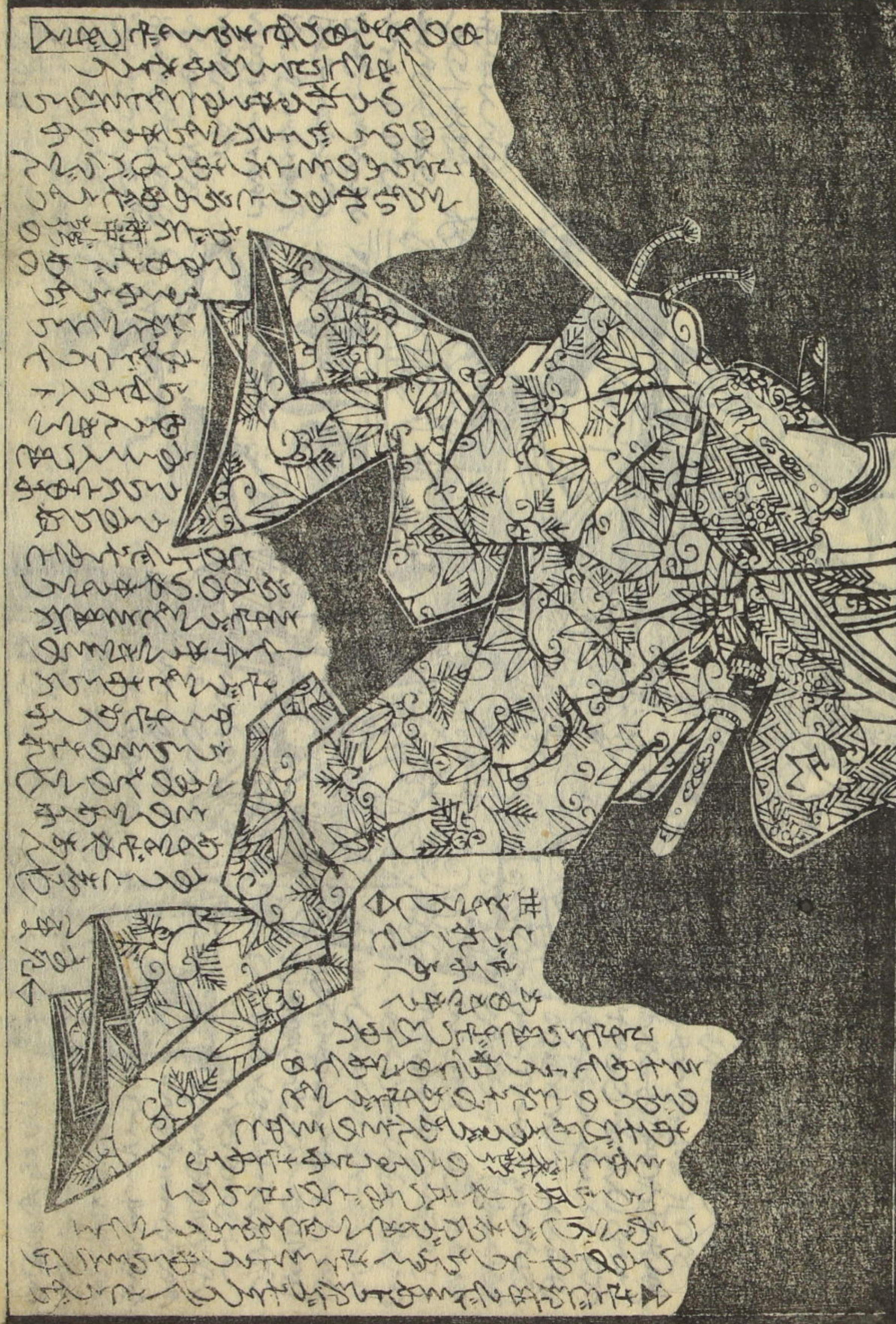
宇都宮氏

術中の妖妓

刀  
目  
巳  
十

刀  
目  
巳  
十



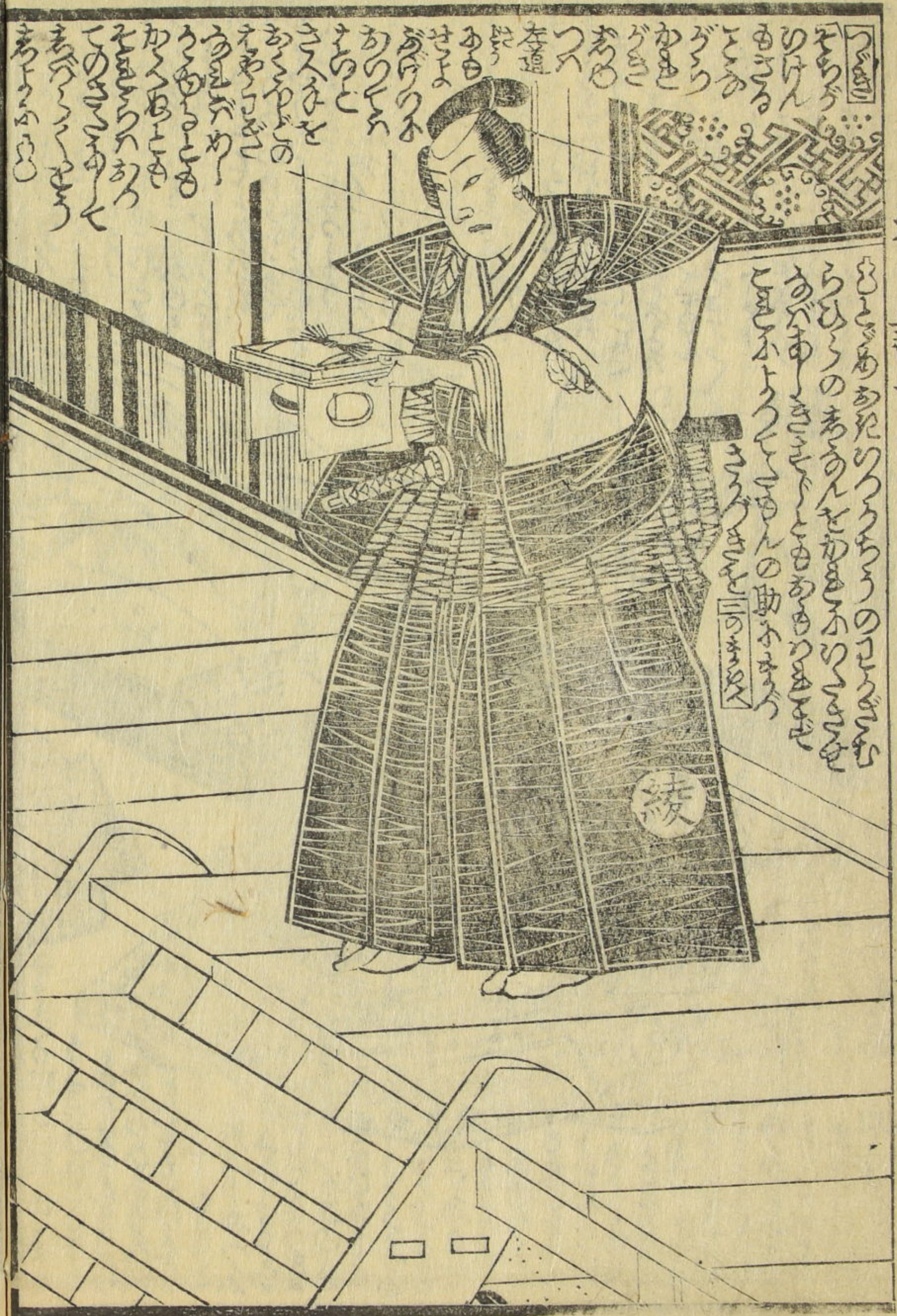


Handwritten marginal notes on the left side of the first page.

Handwritten marginal notes on the left side of the first page.

Handwritten marginal notes on the right side of the second page.





女 田 十

けいせいのあはれりつちうのつらみち  
 らひらのあはれをかみちのまな  
 めかみちのまなをみちのまな  
 けいせいのあはれりつちうのつらみち

けいせいのあはれりつちうのつらみち  
 らひらのあはれをかみちのまな  
 めかみちのまなをみちのまな  
 けいせいのあはれりつちうのつらみち



田 十

けいせいのあはれりつちうのつらみち  
 らひらのあはれをかみちのまな  
 めかみちのまなをみちのまな  
 けいせいのあはれりつちうのつらみち

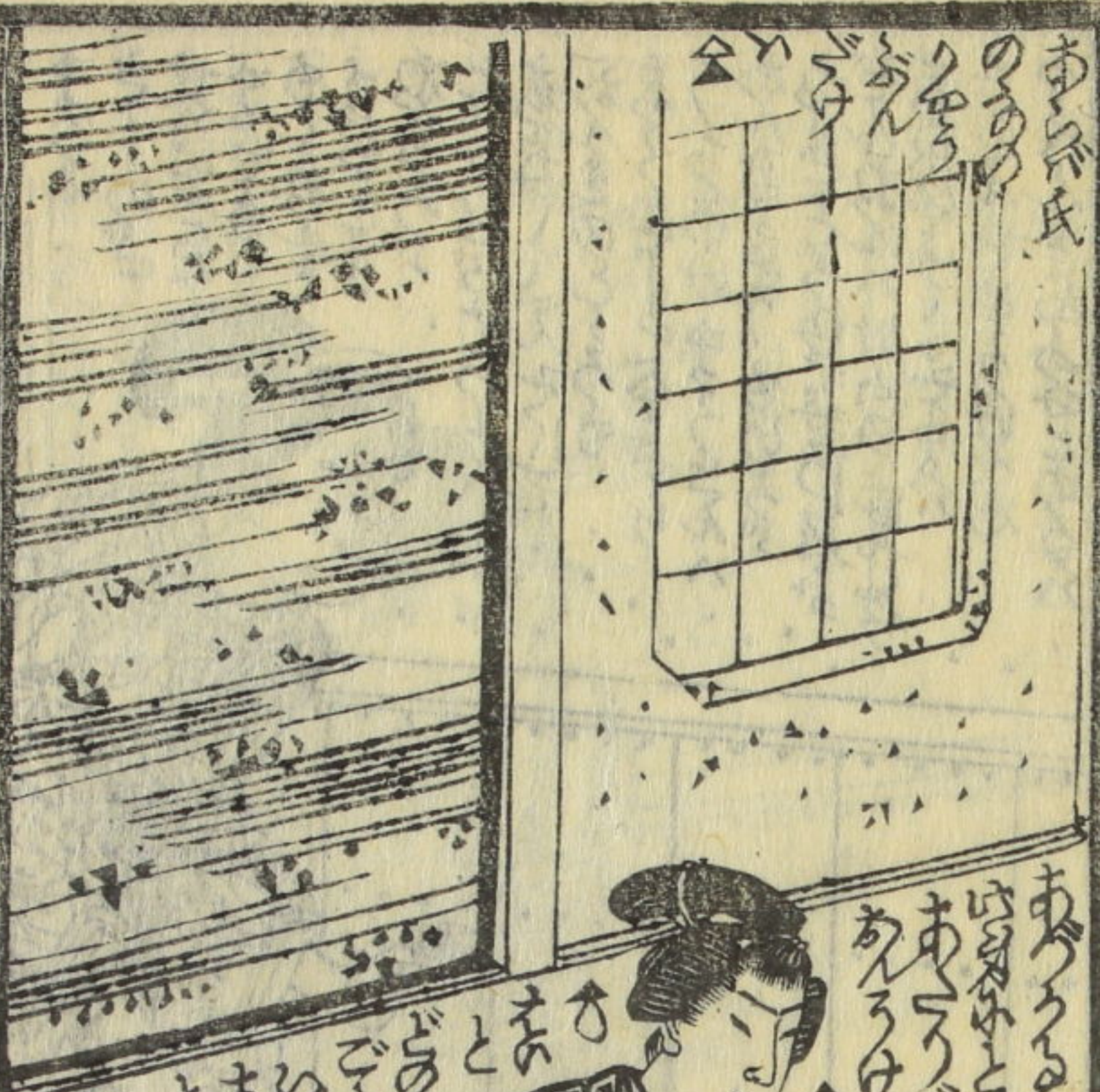
けいせいのあはれりつちうのつらみち  
 らひらのあはれをかみちのまな  
 めかみちのまなをみちのまな  
 けいせいのあはれりつちうのつらみち

伝馬伝



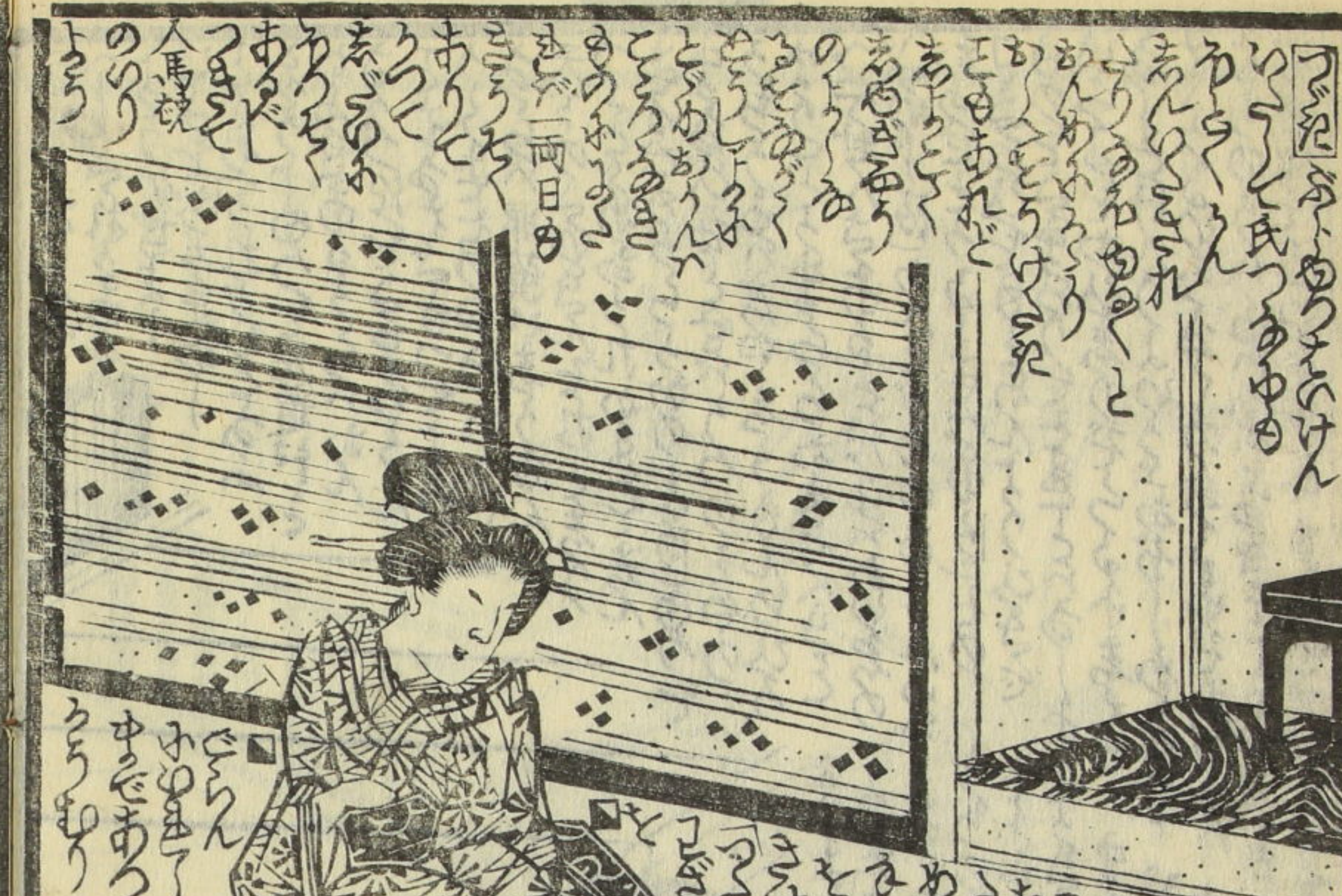
右の女

あつちの女は... 銀座三十... 伝馬伝



あつちの女は... 伝馬伝

あつちの女は... 伝馬伝



あつちの女は... 伝馬伝

あつちの女は... 伝馬伝











